

果樹カメムシ類（モモ、ナシ）の防除対策について

1. 防除対策

- (1) モモ、ナシの有袋栽培では、仕上げ摘果をゆるくして袋掛け果数を通常よりも多く確保するとともに、できるだけ早く袋掛けを行い、被害のない収穫果実数を確保する。また、袋掛けを行う際は、袋と果実が密着していると、袋上からカメムシが吸汁することがあるため、極力袋と果実に隙間ができるように袋掛けを行う。
- (2) 施設栽培の場合は、開放口をネット（4mm目合い）で覆うとカメムシ類の侵入防止対策となる。
- (3) 圃場内をよく観察し、被害果実(写真1)やカメムシ類の発生が見られる場合は、早急に防除を実施する。特にスギ、ヒノキ等が周辺に多い圃場や、過去に被害が認められた圃場では注意する。
- (4) 多発してからの防除は効果が劣る場合があるので、発生初期の防除を徹底する。
- (5) 成虫は夕方に飛来し夜間加害するので、薬剤散布は夕方に広域かつ一斉に行うと効果的である。
- (6) 防除薬剤は、主要作物病害虫・雑草防除指針（表1）、香川県監修の果樹病害虫防除暦を参考にする。
- (7) 薬剤の選定にあたっては、剤の性質によって使い分けが好ましい。
有機リン剤は、殺虫効果は高いが、残効が短い。
合成ピレスロイド系剤は、殺虫効果と吸汁阻害効果に優れ、残効も1週間以上ある。ただし、天敵への影響が強く、ハダニやアブラムシのリサージェンスを引き起こす場合があるので注意する。
ネオニコチノイド剤は、吸汁阻害効果の残効は比較的長いものが多いが、殺虫効果や降雨の影響は、剤により違いがあるので、特性に留意して使用する。
- (8) 黄色蛍光灯は、チャバネアオカメムシには忌避効果があるが、ほかのカメムシ類には効果がないので注意する。



写真1 吸汁部位からヤニが漏出したモモ果実

表1 モモ、ナシに登録のある薬剤(主要作物病害虫・雑草防除指針抜粋)

作物名	薬剤名	薬剤の系統	RACコード	薬剤使用の特記事項
モモ	スミチオン水和剤40	有機リン系	1B	
	アディオン乳剤	合成ピレスロイド系	3A	ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。
	アグロスリン水和剤		3A	
	テルスター水和剤		3A	
	テルスターフロアブル		3A	
	アーデント水和剤		3A	
	アーデントフロアブル		3A	
	ロディー乳剤		3A	
	アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド系	4A	
	モスピラン顆粒水溶剤		4A	
	ダントツ水溶剤		4A	
	アクタラ顆粒水溶剤		4A	
	アルバリン顆粒水溶剤		4A	
スタークル顆粒水溶剤	4A			
ナシ	スミチオン水和剤40	有機リン系	1B	
	スミチオン乳剤		1B	

アディオフロアブル	合成ピ レスロ イド系	3A	ピレスロイド系剤(RAC コード 3A)の 注意事項 ・ 蚕毒が特に強いので注意する。 ・ 散布後、ハダニ類が増えることが あるので注意する。
アディオ乳剤		3A	
アグロスリン水和剤		3A	
サイハロン水和剤		3A	
スカウトフロアブル		3A	
ロディー水和剤		3A	
テルスター水和剤		3A	
テルスターフロアブル		3A	
マブリック水和剤 20		3A	
アーデントフロアブル		3A	
アーデント水和剤	3A		
アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニ コチノ イド系	4A	モスピラン顆粒水溶剤は、新高、八 雲、長十郎、愛甘水に薬害を生じる おそれがあるので使用しない。
アドマイヤー水和剤		4A	
モスピラン顆粒水溶剤		4A	
ベストガード水溶剤		4A	
ダントツ水溶剤		4A	
アルバリン顆粒水溶剤		4A	
スタークル顆粒水溶剤		4A	
バリアード顆粒水和剤		4A	
アクタラ顆粒水溶剤	4A		
(混)キックオフ顆粒水和剤		4A・28	
(混)パーマチオン水和剤		1B・3A	

- ・ 住宅地等に接した地域及び広範囲に防除する場合は、散布する前に付近住民などに周知するとともに、飛散しにくい農薬を使用するようにしましょう。
- ・ 農薬散布は、無風又は風が弱いときに行うなど、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯を選び、風向き、ノズルの向き等に注意して飛散防止を心がけましょう。

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう

病害虫防除所 インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboj/index.html>

